

# 旧鹿野町下落止まる

## 公示地価 古い街並み保存奏功

国土交通省は23日、05年の公示地価を発表した。県内では、全用途の平均が7年連続でマイナス。下落幅は商業地で縮

まったが、住宅地は前年より0.3%減だった。

一方、旧鹿野町の鹿野地区は下落にストップがかかり、古い街並みを保存

する街づくりが功を奏したとみられる。

都道府県が実施する地価調査(7月1日)と併せて、土地取引価格の指標となるもので、県内4市13町村の154地点を1月1日現在で調べた。変動率は住宅地がマイナス5.2%。鳥取市は、価格水準の低い周辺

町村の分譲地や分譲マンションとの競合で特に下落が続ぎ、同市東町2丁目341番1で県内最大の下落率となった。

商業地の変動率はマイナス7.6%と前年より0.5%下落が縮まったが、郊外大型店舗の影響などを反映し、市部で下落が目立った。

住宅地、商業地ともに、下落幅が最小だったのは鳥取市鹿野町鹿野地区。同地区では94年、街並み環境整備事業が始まった。鹿野城跡周辺の城下町の風情を取り戻すため、石垣や石造りの水路の修復、土色のアスファルトを使った道路整備などを進めてきた。

最高価格は、住宅地では下落幅が最大だった鳥取市東町2丁目341番1の14万6千円、商業地は同市栄町710番の33万5千円だった。

00年には、町おこしのNPOもできた。住民自ら「街なみ協定」を結び、木造建築の保存や民家の軒の整備など、官民共同で自然と調和した街並みづくりに着手。国交省は「数年前から始めた街づくりが浸透し、生活環境が充実してきた」と分析している。

今年度の公示地価のうち、鳥取・岡山・島根県分を31面に掲載しました。



古い町並みの保存が地価の下落率の歯止めにつながった。鳥取市鹿野町鹿野で

### 公示地価を第3地方版に掲載

今年度の公示地価のうち、鳥取・岡山・島根県分を31面に掲載しました。